

教育センター研修だより



南砺市教育センター

平成30年度学校訪問より ～日々の教育活動の向上・改善に向けて～

2月12日（火）に、西部教育事務所と南砺市教育委員会、南砺市教育センターで、今年度の学校訪問の振り返りを行いました。その際に、話題になったことをまとめました。日々の教育活動の向上・改善に向けて、参考にいただければ幸いです。



<南砺市の授業スタイルの定着・発展>

- 型にこだわり過ぎないように、子供の必要感を大切に、実態に合わせて見直し検討していくことが必要である。

<学習指導について>

- 教師と子供が、ねらい（単元、本時）を共有することが大事である。
- 学習活動の「必要感」を大切にする。
- 対話の前には、一人学びで自分の考えをつくる時間を大切にする。
- 話し合いから何が分かるか、見通しをもち、学習課題を解決していく。
- 何のためのペア・グループ学習か、ねらいを明確にする。
- ICTの活用で、考えを可視化する。
- 多様な表現活動を保障する。
- 批判的思考力の育成を意識する。
- 学習規律を徹底する。
- 学習課題に立ち戻って、振り返りを行う。
- 子供の姿を基に、教師が授業を振り返ることを積み重ねる。そのことが授業力につながる。



<生徒指導について>

- つぶやき、やる気を生かす教師の姿勢、言葉かけが大切である。
- できたら、褒めることで、子供が自信をもっていく。
- 外部支援員が手をかけすぎているか。適切な関わりを吟味する。子供が依存しすぎないように、スタディ・メイト等の配置を学期ごとに換え、効果が出ている学校もあった。
- 教師の指示が途中で変わり、子供が戸惑うことがないように、教師の指示は一貫性をもたせる。
- 不登校が増えている。一人一人の背景（家庭・学校）を把握し、家庭や諸機関と連携を図って、将来的に自立できるように支援に当たる。
- 子供の命を守るための危機管理をする。校内で対応の確認をする。
- 新年度に向けての不安、心の危機はないか。子供の様子、内面を捉えるように努め、校内で対応の確認をする。

<特別支援教育について>

- 特別支援学級では、一人一人が積極的に学習をしていくために、個に応じた支援、学級づくりを工夫する。
- 通級指導教室では、読む、聞くなど、一人一人の実態に応じたトレーニングを行い、教室に戻ったときに自信をもって学習に取り組めるような効果的な授業内容を工夫する。
- 校内で特別支援の共通理解をする時間の確保が難しい。元々の予定にある会議等の中で情報共有の時間をもつなどの工夫をし、子供の実態や支援方法の共通理解に努める。